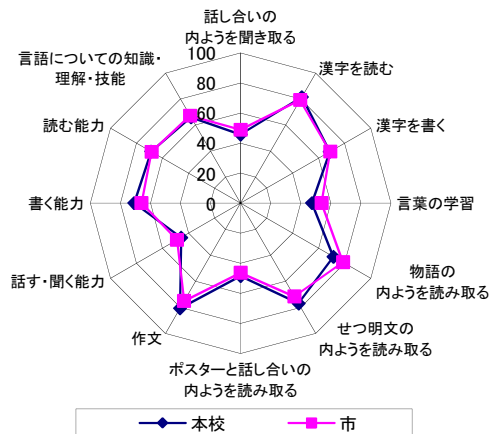


宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	45.7	48.8
	漢字を読む	81.5	79.3
	漢字を書く	68.5	68.8
	言葉の学習	47.5	53.8
	物語の内ようを読み取る	71.3	78.7
	せつ明文の内ようを読み取る	77.0	71.6
	ポスターと話し合いの内ようを読み取る	48.5	46.3
	作文	80.8	75.1
観点別	話す・聞く能力	45.7	48.8
	書く能力	70.8	65.9
	読む能力	68.8	68.4
	言語についての知識・理解・技能	66.1	67.2



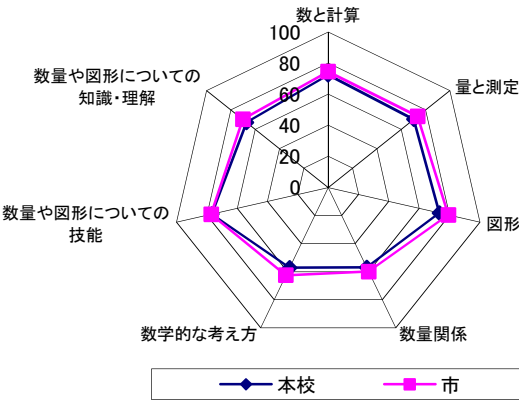
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・平均正答率は約46%で、市の平均を約3ポイント下回っており、身についているとは言えない。 ・全体に聞き取り問題の正答率が低かったが、特に、話の中心に気を付けて聞くことができていなかった。 ・しかしながら、昨年度(3年生の時)との比較においては市の平均との差に4ポイントの向上が見られた。	・今後も、相手の言いたいこと(話の中心)は何かを意識して聞くようにさせるとともに、話の内容をしっかりとらえ集中して考えながら聞く習慣をつける。 ・話し合いができるように、相手の話を最後まで聞き、話題に沿ったことを話していけるように指導していく。
漢字	・漢字を読むことについては、平均正答率は約81%で、市の平均を2ポイント上回った。 ・漢字を書くことについては、わずかに市の平均を下回ったが、ほぼ市の平均と同じと言える。 ・読みについては4年生で学習した漢字の正答率が高かった。過去に学習した漢字についても定着するよう指導が必要。	・これまでに学習した漢字について復習を行い、定着を図る。 ・学習において、既習の漢字をできるだけ使って文章を書くよう声をかけ、学習した漢字を使って文章を書こうとする意識と習慣をつける。また、同音・同訓の漢字、同じ部首の漢字や、これまで学習した基礎的な漢字の組み合わせで多くの字ができるがることなど、より幅広い漢字の知識が身に付くようにする。
言葉の学習	・平均正答率は約47%で、市の平均を約6ポイント下回っており、身に付いているとは言えない。 ・漢字辞典の使い方を答える問題の正答率が非常に低かった。 ・ことわざについての問題は、市の平均程度にはできていた。	・日常の授業の中で、修飾語の係り受けなどについても意識するよう指導し、意味をとらえさせる。 ・日常の国語の授業や家庭学習の中で、漢字辞典を引く機会を増やし、漢字辞典の引き方に慣れ、積極的に辞典を使う意識と習慣をつける。 ・読書を奨励し、多くの言葉に触れる機会を増やしていく。
物語の内ようを読み取る	・平均正答率は約71%で、市の平均を約7ポイント下回っており、学習し、力をつける必要がある。 ・登場人物の気持ちの変化や場面の様子を読み取る問題など、全体的に読み取りについて正答率が低い。	・登場人物の様子や心情の変化を場面ごとに考える学習を意図的に行い、読解力を伸ばしていく。 ・登場人物の気持ちを自分に置き換えて想像するよう日常的に指導し、考え方を身に付けさせる。 ・今後も朝の読書を奨励し、音読や読書活動を積極的に取り入れて、本に親しむ機会を増やし、さらに読解力が高まるようにする。
せつ明文の内ようを読み取る	・平均正答率は約77%で、市の平均を6ポイントほど上回った。 ・説明文の読み取りについての正答率全てで、市の平均を上回った。特に文と文のつながりに注意して文章を読み取る問題は平均正答率で市の平均を9ポイント近く上回り、文章読解の基本については身に付きつつあることが伺われる。	・接続語に注意して段落と段落の関係をとらえたり、段落の要旨をとらえたりする学習を通し、文脈に即して書かれている内容を読み取る力は伸びてきているので、さらに複雑な説明文や、心情を読み取る物語の学習への発展を図りたい。
ポスターと話し合いの内ようを読み取る	・平均正答率は、約48%で市の平均を約2ポイント上回った。 ・資料を正しく読み取る読み取りの問題で正答率が低かったが、資料を読み取ったうえで、適切な言葉を使って文を書き直す問題の正答率は高かった。問題文そのものを正しく理解できるかどうかの差が出たものと思われ、複雑な質問を理解する力が必要。	・総合学習を始め、国語や社会など多くの教科でグループ活動や発表の機会を増やし、与えられた情報をもとに、資料を正しく読み取り、情報を整理して適切に話す学習を意図的に行っていく。 ・お楽しみ会の立案を始め、児童の日常に直結するような話し合い活動を通し、相手の意見を正しく理解できるように指導する。
作文	・平均正答率は約81%で、市の平均を6ポイントほど上回った。 ・指定された長さで、2段落構成にして、自分の意見と理由を分けて書くこと、全てで市の平均以上によく書くことができていた。	・作文において何も書かないことや短文でいい加減な文を書かないよう、繰り返し指導し、作文を書く意識に変容が見られた。今後も継続的に文章を書く習慣を身に付けさせ、書く力を高めていく。 ・書いた文章を読み返す習慣が付くように指導し、作文の書き方の形式について理解させ、目的に応じて様々な文章を書くことができるように指導する。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	72.4	74.5
	量と測定	70.3	73.5
	図形	73.3	79.2
	数量関係	57.0	59.9
観点別	数学的な考え方	57.2	62.5
	数量や図形についての技能	76.8	77.1
	数量や図形についての知識・理解	67.2	70.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	- 平均正答率は約72%で市の平均を下回っている。 - 設問別に見ると、同分母のたし算は正答率98%とよくできている。 「3けた×2けた＝5けた」の計算と「倍とわり算の文章問題」の正答率が低く、特に3けた×2けたの計算は市の平均を10ポイント以上下回っている。	- 個人差が大きい領域なので、既習内容がしっかり身に付くよう定期的に復習の時間をとり、定着を図る。特に「3けた×2けた＝5けた」の問題については重点的に復習し、苦手な児童には個別に支援をし、しっかり身に付くようにする。 「倍とわり算の文章問題」は「もとにする量」と「比べられる量」が見分けられるよう、類似問題に取り組ませ、正しい立式ができるようにする。
量と測定	- 平均正答率は約70%で市の平均を下回っている。 - 設問別に見ると、長方形の面積を求める問題はよくできているが、角の大きさの見当をつけたり、身近にあるものの面積を推察したりすることの正答率は低かった。	- 身近にあるものの面積を推察し、適切な単位を使って表す機会を意図的に設けるようにする。 「角の大きさ」については特に重点的に復習し、直角を超えない鋭角であるのか、超える鈍角であるのかの理解につなげたい。
図形	- 平均正答率は約73%で市の平均を6ポイント近く下回っている。 - 設問別に見ると「球の半径から球が3つ並んだときの長さを求める」問題の正答率が約62%と他の問題に比べて低い。	- 問題が「円・球・三角形」に関する問題3題のみだったので、「四角形」や「立体」などについても復習し、定着を図る。 「球の半径から球が3つ並んだときの長さを求める」問題は重点的に復習し、理解につなげたい。
数量関係	- 平均正答率は約57%と市の平均を下回っており、他の領域と比べても低い。 - 設問別に見ると「計算のきまり」の「分配法則」の理解と「折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る」「二次元表を利用して問題を解く」の正答率が低く、特に「二次元表」の問題の正答率は26%と全ての設問中、最も低い。	「計算のきまり」は個人差が大きい領域なので重点的に復習して理解させ、定着を図りたい。 「折れ線グラフ」の特質について復習し、傾きが変化の度合いを表していることをしっかり理解させる。 「二次元表」については、特に重点的に復習し、苦手な児童には個別に支援していき、理解につなげたい。